# 夫木和歌抄

巻十八

1765
8

125

門へ刻々
1765
8

301

文永和歌抄巻第八

夏部二

郭公　五月雨

牡丹　樗

水鶏　蛍

射

百合　橘河

菖蒲　夏雑

六行分トル

改頁

郭公　三行分トル

し　恋集

大納言経信卿

たのもしさそのあやめ郭公なくやさつきのつまもとめて

行円郭公

月

嘗の初ねの音たえてまちをとこそたのめ郭公

天仁三年四月師時歌合郭公

後拾遺

郭公なくやさつきのうちひさしあやめ草ねにかけてこそ

千五百番歌合

酩酊入道前太政大臣

かくてきくすゑのいくこうちつみ嘗ふかるかな

301

夏部

伊勢ハ
高麗ニ倣フ

文木和歌抄巻第八

夏部二

郭公　五月雨　題射　妻

牡丹　樗　百合　橘河

水鶏　蛍　森水　夏雜

ツメル

改夏

六行分トル

郭公　三行分トル

し　夏

大納言経信卿

ほとゝぎすなくやさつきのあやめ草
あやめもしらぬこゝろ
なるらん

行円郭公

ほとゝぎすなくこゑたやのあしまより
ねやまの月のかたけ
ぬるかな

天仁三年四月卅日内裏歌合郭公

後拾遺

郭公なくこゑうとのうらひすゝ
千五百番歌合　歌　醍醐入道前太政大臣

ほとゝぎすなくこゑ
やまのいろくさ
ゆめ
ぬるかな

夏部

正治二年百首

五月雨の雲間の月の出もとわれ分て志しとき侍るの心

千又百首の内

家長卿

くひすのさらぬ夜の雲ぬしら波の雲間の月のなかめ

正三位重家卿

郭公なくこゑもしるき命のもとのうゝ雲のこゑ

家業郭公の中　西行法師

雲のゆくすゑのうゝ雲ゆくあはれしらしこゝろの色かな

寂蓮法師

くひすのなくすゑ遠郭公こゑたにのこる夕べかな

正治二年百首

遠仁え年七月の卒そ年一合

慈鎮和尚

為ゝうかりうゝ花ちるこのこゝろてゝ雲ゝ雲のゝ月ゝ雲ゝ

かゝゝゝすゝゝゝ

307



[illegible]

御惠法師

[illegible]

西三條殿にて

源雅重卿に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百八
きのくぬのいくとの森のかくれすくすのもとに
百十九
ひとりのこりけるかの山ゆきるれも
人丸

百十一 一説あまとりの
あまとりの
あまとりのとりのこえすうらばさてこそ
よこひとりすず

百十二 家元
かくしこそすとりのうらにたまるこのたつくこそたんうらと
家元
ちるやふるうすれ神の杜のてそこそうつる紅葉
久安百首
清原頼良 輔イ
かくしこそ代ぬれ袖にうすくすれ森にたなびくすうん

百十三 ほとゝきす
新古今 建久元年百首 藤原俊成
なくこえて橘の花のかをるかたのもとの初瀬 江
貞応三年百首 藤原定家
民部卿 郭
雲のうへにきくやしるらん郭公すはのうきわたる雲のかたち
寛治二年百首 源師賢 藤三位家
新古今 ほとゝきす
新古今 ほとゝきす
ひとりたのもしの人をたれかこそ
志賀宣子
彩ふ新
百八
神なびのいくとの森のかくれすくするもしのとにこそ
岡
うん

百八
きのくぬのいくさの森のかりきすのやまのみね
百十九
ひとりのさらけいるもの 一説さらし 新古今
人丸

百十
一説あまとりの
あまとりのさらしひとりてかすうちぬるきぬ
よるこひしずす

百十一 家定
やとりきすとりのうにはたきるこの夕ぐれ見んうしも
嘉
ちりやかりうすれ神の杜のてそそきもつ鳴ほとときすかな

久安百首

家
たちよこそぬれ衣ぬれ衣きてかりきすすれ森よりなきすすん
清原頼成 輔イ

百八
ほとゝぎす
新古今元年百首新古今 無名抄 桐火
なくこえを聞かぬ日さへ時鳥江初頼
貞永三年百部百首定家
民部卿
雅経
雅経三年百部百首新古今
雅経三年百首詠歌 四三 住家歌
新古今
ほとゝぎす
ほとゝぎすなくこえ聞かぬ日さへ時鳥
志貴皇子
岡
ほとゝぎすなくこえ聞かぬ日さへ時鳥

歌集なかの中

中納言家持卿

家 [illegible]

渡 [illegible]

[illegible]

[illegible]

さらしなやをばすてやまの月をみてこよひのつきのかげにまかせん

常縁并百首歌乙　　源仲正

郭公 [illegible]

歌集

後拾遺

散木 [illegible]

[illegible]

後二條院隆信

聲 [illegible]

三百六十首中

郭公 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

ほとゝきすこゑあらそふて衣てのもり（森）のぬしつくとうのこゝろ
みそろ

なとゝきすこゑや五月のあめ（たま）ぬけるすゝしろ（たろ）衣てのもりの白露

前摂政太政大臣家百首歌　光俊朝臣

ほとゝきす（啼）鳴かつるこゑのなかりつるをけふてそ（染）めぬ衣ての森

社頭郭公（頭）

大炎上の時

このもりとふる神（社）のもとゝきすこゑ（なくほとゝきす）ふりたる神さひて鳴郭公

ようこゝ人こゝろず

夏

ほとゝきす今もなかぬらんたにさゝせん

光業院入道二品親王家五十首歌　冬

ほとゝきすこゑのをうしなあすゝ川ゆきゝ（岡）ぬれてまつもとる（寄）

玉鉾

なかれこのゆきゝの（岡）ぬれぬほとゝきす今もなかぬらんたに（ところ）さゝせん

後鳥羽院御歌

なとゝきす（ほとゝきす）郭公なくや五月をまつとせしかのひのわの（岡）つゝ（ところ）

永万二年重家卿家歌合　郭公

藤原彰俊

後宴歌

川（岡）ゆきゝぬれてまつもとる（寄）

藤原基継

法皇光宣

なとゝきすひとりこのひのわ（岡）にぬらん

後深法院

郭公なくや五月をまつとせしかのひのわ（岡）のつゝ（ところ）

藤原彰俊

913

雜

れいぜいこうのひのおとゝの時分おとうちうけぬゝうになるらん

六位殿

正三位知家卿

約六一

なをさてゝもこうのひのおとゝ九月時分

百首のゆゝ人数

法印定家

九月まつ花のひのおとゝ九月

ゆゝのこゝろすゝのこゝろ

花

えいぞう元年正月中院入道大臣家の合歌

晚秋之実景歌

九月やこゝろぬる山の時雨

雜

ふかさやゝ色ぬるこゝろ

保安二年同九月殿上人歌合

左京大夫

まちのそゝろ秋の山のこゝろ

紅葉のうたのうつる時

秋もこえ年百首

藤公

拾九條内大臣

月うりをいてさゝまちひのまのこゝろ

山ゝ

歌合

寛治二年百首内裏

日

ちうやふる神ゝき山ぶこゝすゝ

なくこゝろ

惜

同院摂政家百首

光明峯寺入道摂政

ゆゝのこゝろ

ゆゝのこゝろ

ゆゝのこゝろ

同

同

小鳴

清

注

今こうまちんこん時分

時

雜

撰信正公歌

七百首六中

今こうまちんこん時分

時

雜

撰信正公歌

やまゝ里

[illegible]

[illegible]

この[illegible]

せるのたゝ[illegible]

てゝゝとゝ

歌集

大宰大弐[illegible]

いつちとゝちきわゝゝん河[illegible]

殿上會歌

[illegible]

なゝき[illegible]

[illegible]

歌集[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古今

人丸

中納言兼輔卿

かくれすむなかるる名きやうれものさきちるまにうきひくらし

家集夏中

卯の花のかれる月のつきけるやうるほとときす新古今

後撰夏

伊勢集

卯月まのふるさとの郭公にて　お中納言兼輔卿

郭公なかるるこのうれしきこのうれしきこのうれしき

雜 秋 三月 歌現在

あきのくれのこのもかのもにうすもみぢしぐるるかぜにちるかとぞみる

百首歌

第六 第六 第六

たちてゆくすなはちそのちかの山をうとぶらんれぬそにたかの

百首歌

月 高野

月のいでぬるかのやまのかげにくもりすまはつるかぜのおとかな

歌合 暮

歌合 暮

あきのくれのこのもかのもにうすもみぢしぐるるかぜにちるかとぞみる

日

あきのくれのこのもかのもにうすもみぢしぐるるかぜにちるかとぞみる

海辺歌

今はとてなれしのうらにたちかへりなほうらみぬるかぜ

歌合

西行法師

ほとときす 聲

ほとときすなくこえにこそあやまたれ

同

ほとときす 聲

ほとときすなくこえにこそあやまたれ

ほとときす

ほとときすなくこえにこそあやまたれ

一字 重出

ほとときす

ほとときすいくこえきくとはしらねどもやまずなくこそ

仁和元年行平家歌合歌

音羽

おとはやまこのしたかけにすむうぐひすのこゑにまがふかぜ

音羽

おとはやまこのしたかけにすむうぐひすのこゑにまがふかぜ

同

おとはやまこのしたかけにすむうぐひすのこゑにまがふかぜ

同

永万二年重家卿歌合歌

猿人

ほとときす

ほとときすなくこえにこそあやまたれ

ほとときす

ほとときすなくこえにこそあやまたれ

保安二年閏五月殿上賢人歌合

夏

ほとゝぎす

源重昌

同

ほとゝぎす

神祇伯仲実

月

ほとゝぎす

待

藤原惟隆

第安二年第百番歌合 清原頼良

月

ほとゝぎす

新後撰夏

ほとゝぎす

正治二年百首

藤原雅経

ほとゝぎす

武蔵国歌

月

ほとゝぎす

隆信朝臣

月

ほとゝぎす

藤原定家

月

ほとゝぎす

藤原為家

月

ほとゝぎす

藤原為氏

歌合 嘉祐 歌

法二位家隆

うきよすてうらとへすきぬ歌ゝいくのりやとあり

遠保三年内大臣家百首 社 歌

拾遺 家集

ほの国のいくしまのうらのかたくきすとのれすゝとゝ

寛治八年八月京極関白家歌合 歌

摂中納言通俊

ほとゝきすなのまくにうつりていくのうらよりてゝ

中務卿親王家歌合 歌

法二位孝氏

きまゝやあのうらのうらのうらもかたくきすなき歌

歌

法中

かくとゝすなのまくにうつりていくのうらのうらとゝ

ほとゝきすなのまくにうつりていくのうらのうらとゝ

あきのゝのゝのゝのゝのゝのゝのゝのゝのゝのゝ

ほとゝきす

なのまくにすなのまくにうつりていくのうらのうらとゝ

山中 歌

かくとゝすとのうねやまのあるしにとりねやとゝ

夕月 歌

こゝ屋のうらゝ屋のうらゝ

南山のゝ峯のゝとゝ

法勝院ゝ 家

こゝ毎のこゝ落ゝなのかゝ

拾遺集

拾遺集

五月やみこゝ毎の山かゝ

こゝろびのこゝろ元

五月雨

五月雨

五月雨

320

[illegible]

月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光孝院入道親王家五十首歌

後二條院御歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仁和寺院城南[illegible]

河内

早苗[illegible]鳥羽田面[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

仁九條院

同[illegible]川原[illegible]

[illegible]

[illegible]

佐賀郡

弘長元年門裏合戦

第六番　佐賀郡

百首歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

近

[illegible]郡[illegible]

空

[illegible]

玉夏

伏見

[illegible]

文[illegible]元年七社百首

[illegible]部[illegible]郷

[illegible]

ほと

聲

鈴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かつらゝのうちうんのうちくきすまとこの名代にはくやうく
判云 実後拾遺 右とこの島すゝ日本紀同
為入 新 ゝ げ
づくやなうん 云江
遠保三年内裏百首 和歌
ほとゝきす
ゆくかたをぬんいまもあけのゆくわ海の山
月
ほとゝきす
ほとゝきすのこゑ篠
郭公 山路の中
藤倉右大臣
ほとゝきす
ほとゝきす
ほとゝきす

内
内
内
誤
遠保三年内大臣家百首 郭公
大納言為忠
ほとゝきす
ほとゝきす
法橋孝照
題 昭
新続古離別
今はとていもとのやまのうくきすわすれしこゑもかな
山
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
内大臣院御製
図書寮本 ハ丁 長保
ほとゝきすうくきの山のこゑまちかり
臣
源頼国卿
なきつるこゑうつり世ハ新古ひのくゝ海うたこゑさそ

文保二年百首

おもひ川云皇嘉門

いくよせんひめの川の水のかけてきよまるす

聲

第九二年四季百首　同

ほとときす

ほとときす聲

ほとときす

ほとときす

ほとときす

歌五十首題詠

光孝院入道二品親王

あかつきのしもにうもれぬかりがねを
なかるゝこえにそらふ

法印定花

かりがねのつばさにしもをはらはれて
なかるゝこえのしのにまじるらん

法印定花宗

ほとゝぎすなきわたるかたのまつかぜに
ゆくへもしらぬ雲のはるかな

同院御歌百首歌中

後九條内大臣

ゆくへなき雲にたぐへてしらぬかな
あはれとおもふこゝろのうちを

家五十首題歌

光孝院入道二品親王

正三位家衡卿

あかつきのしもにうもれぬかりがねを
なかるゝこえにそらふ

歌会始

信実朝臣

信実の歌をいとゝてかりがねのこゑにそ
なかるゝこえにそらふ

百首歌の中

為氏卿

すゝこうの初もまつかやのとをとをしてすかるる
こゑ人をまつらん

手向

ほとゝぎす

月

ほとゝぎす

月

ほとゝぎす

月

五月廿三日　ほとときす　郭公　聞つるなく郭公ぬれてこそ聞てさへゆれ

参河国名所百首　西行法師

わすれやしにきつるけりや郭公　ほとときす　心ろ　ぬれてこそ聞

建久二年五月廿日内裏百人合　郭公

伯耆捕　西行

五月雨よりてくるけとこへどもあすのちやゆかとの旅

郭公　ほとときす　雨山　匠

郭公　為勝

郭公　為勝

百五十番歌合

伯耆捕　西行

とりもあれ花ちる里の水ぬるとのうゝ月のとりもとゝ

山寺郭公　西行法師



ほとゝきすなくこゑにうちてゝもとりもとりあへぬ　簾　初聞

郭公　伯耆

まつへ　四　かちらうまいしこゝろ　まわ　に郭公

同院御歌百首郭公　伯耆法師

ものこゝろ　荒　山ろかくこゝすこゝにのこゝこゝつきつる

伯耆　九條内大臣

内

うゝ　ものこゝ　ひち

同院御歌

内

ほとゝきすなくこゝ　ほとゝきす　内　郭公　かな

歌合　郭公　ほとゝきす　内　ほとゝきすなくこゝ　ほとゝきす　内　ほとゝきすなくこゝ　ほとゝきす　内　ほとゝきすなくこゝ

329

月

法二位[illegible]

ひさしのやそとをもとめあしひきの山路をたちてなくしか

月

家長卿

秋もすゑ[illegible]ものとおもふ[illegible]

月

後成卿女

いなくさすをのをもやをぬんあさくら山のよそをも

久安百首

前右兵衛督[illegible]

あさくらやこらのをのるかるのをのをもとも

関白太政大臣

おの中納言道房卿

りくをすをみをををんなるをんりやあさくら山のよそをも

法性寺入道前太政大臣　民部卿

雲ワたるをのをのをの

558

神もうけたまはるのみかりのもとにて
かうこんたるものの初音をつたへ
聞こえさせたまへるに
同五年五月二日の夕ほとゝぎす
聞こえさせたまへるいとやんごとなきもの
なれば
後拾遺
ほとゝぎすなくこゑまちかねてこそ
あやめ草
人丸
方十四
伝聞ほとゝぎすのあまた所にきけるたより
に
五百番歌合
後二位保季卿
聞きけばやすらへまうのあけぼのに
ほとゝぎす
江
なくこゑのこゝろもとまらぬ
少納言
ほとゝぎす
聞こえぬ
文永元年七社百首
郭公
郭公
郭公

551

海乃富次後百首

百首鏡山歌

月のうかゝれる山のかゝれる雲ゝうつりてそらく

藤原成茂

少安子

かたちを神ふる山のくもなくとゝまるはなるべし

源重方

ゆゝしかれ人家

ゝ雲ちぬまよりけてやゆくるまゝのゝ雲のゝ

和泉門院

同 源宋

いそのゝなかのゝなかのゝ雲のゝ

同 太政大臣

前関白太政大臣

保安二年閏五月廿合歌

源俊頼朝臣

ゆゝしかれ人家

ゝ雲ちぬまよりけてやゆくるまゝのゝ雲のゝ

保安二年閏五月廿合歌

源俊頼朝臣

ゆゝしかれ人家

ゝ雲ちぬまよりけてやゆくるまゝのゝ雲のゝ

保安二年結根文百首歌

安嘉門院四條

西ゝのまてたゝのゝ西の雲のゝ

文永二年七月白河殿百首後歌

光俊朝臣

深路

ありなしゝかゝゝ永の月ゝゝゝゝゝ雲ゝ

保安二年閏五月後度百首合歌

源経宗朝臣

ほつまちややとのとゝやとの（不破関屋）
ゆうけのうしほのふとる（鳴）山のかな（ほとゝぎす）

同院御歌百首　後二條前太
とゝきすなるいとの山の（ほとゝぎす）かゆる間の
結願百首　（此）五月雨
ゝとのやゝうけの山のゆ〳〵さすのゝきゝうれぬれつゝ
夫婦男女入交御歌百首　後二條前
あつまちぬゝ〳〵山のゆ〳〵さたゝゆ（上）ゝとゝ（待）
歌集
ほゝゝすなもれの森よあうけて（ほとゝぎす）
隆祐卿

嘉禄二年十首会歌　後久我太政大臣
神さふるゆうけのゆりの氏河る（ほとゝぎす）
ゝとゝのとやまのゝ河る名の河るゝゝとゝとゝゝゝ
仙洞三首会　河名　かゆる間の
ゆゝとのゝさ月のゝとゝとゝやゝりれきのあゝゝれて
河河名とゝとゝ　前右兵衛督為教
なけやいさとゝとゝゝすゝる河る名ゝゝはゝゝとゝの関（せき）とゝ
歌合蓮中河名　後理実朝臣
五月雨ゝいまゝゝの氏河る（ほとゝぎす）ゝとゝゝゝゝ（渡）

中院入道右大臣家六十合部之

祇園社伯孫仲々

ほとゝきす聞るいまはこのゝのひとこゑ聞ゝ又月をまちてとうとしきかん

よしゝ人をつゝむ

郭公

ほとゝきすなのりの山にすまはのたにそなるゝ高くなく

東宮忠親卿

仕部卿

石向

郭公

なにをうつゝのゝきりにたゝすくるふるさとをとはりつゝてをとゝ

山部卿

法中円勇

ほとゝきすいとゝさのゝのゝ山のゝ山にすまはのたにそなるゝ

山は

五月のすゑの方人のゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨の雲間なくのこれるに

家集河内月雨

五月雨はやさらしうちつのるてよりかくれぬ

ひろせがわらのせきぬれ

なるれやてつるの人にまつ

五月雨ハゆく〳〵きみのあてもとこ

ゆくすゑをてんゆくうんの月のうち

家集めりあ

五月雨はやさらしうちつのるてよりかくれぬ

ひろせがわらのせきぬれ

なるれやてつるの人にまつ

五月雨ハゆく〳〵きみのあてもとこ

ゆくすゑをてんゆくうんの月のうち

後拾

五月雨はやさらしうちつのるてよりかくれぬ

ひろせがわらのせきぬれ

家集

うけてすめるうしをなるさみだれ

くもの面まの合

五月雨はいとつのるひろせがわらのせきぬれ

第中納言家歌

五月雨やうをもちうれぬ五月雨

五月雨はいとつのるひろせがわらのせきぬれ

五月雨はいとつのるひろせがわらのせきぬれ

後二條院御

五月雨はいとつのるひろせがわらのせきぬれ

家集

うけてすめるうしをなるさみだれ

くもの面まの合

五月雨はいとつのるひろせがわらのせきぬれ

第中納言家歌

五月雨やうをもちうれぬ五月雨

五月雨はいとつのるひろせがわらのせきぬれ

後二條院御

六月記

初六日

五月雨の光もるかさ法さとしのうるをのり分りかたり

法華二十八品経百巻五月雨日経摂政

五月雨よるいのりいろふきて水のまろくたまりそこりき

遠仁元年七月十首六合 同

さつきやみ

五月山雨に雨そふ五月雨よりまろふ氏すまろ白まろ云

同院摂政家百首五月雨 後九条内大臣

五月雨ハむるすしさをよりちぬし水ぬしをあらう白ぬし

法二位行能卿

五月雨さ月のゆく名いまろれりひもしまろさこの雨

信實卿

いとこ文書のあやかさあるしんのうのうしの雨ぬ比

雨まる百首

五月雨に雨とのふるさとにたらの邦のむまろさ雨ぬのさと

為経卿

五月雨ハ百首 同

人まろいとしやすまり雨の考にあるかぬ雨の雨入まり

歌合山家五月雨

前民部卿

ちひさかすかのこれ竹枝ねんてこさつをあとさ水の雨

百首四十中十

中務卿のみこ

五月雨いとこれぬこさゆりこるしりこのさこさらメそのみ

新後拾遺

あんぜ三年百首五月百　参議為相卿

乾元二年二月文月百　同

第中納言為忠卿

文月百いとゝろくゝとゝまれたてゝゝねゝ山のゝてゝゝゝ

あんぜ三年仙洞三十首五月百

法二位為實卿

ちゝくゝゝゝゝまてゝをとゝゝわひてゝゝゝゝ文月百ゝゝゝゝゝ

山の文月百

大納言行宗

文月百いゝくゝになりゝゝまゝゝゝゝゝ

五月雨の中

法二位家隆卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨いさらの柳のこずえのわらはやみえん

蓮生法師　八十賀し　民部卿為家卿

五月雨の海士の苫屋のしずくにぬれてもすまぬ袖かな

資盛卿女　合五月雨　後鳥羽院御製

五月雨はやまもるさと河やわいろ長とのうちすん

正治二年百首

五月雨の[illegible]

[illegible]

長秋詠藻

五月雨は[illegible]高嶺

正治二年百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨の中

法二位家隆卿

ちのこゑよりたかくなりまさるかはのみなくちにうかぶ五月雨のやど

つきくさのはなのうへにやうかぶらん徒然

永万二年五月御歌合 五月雨

藤原資隆朝臣

五月雨いきしの柳のこずえにのこりなびくらんえん

蓮生法師 八十賀 民部卿

文月雨ふるのしらつゆのあまのはしてをさまる家

資盛朝臣家合 五月雨 後鳥羽院御

五月雨はやまもしるきさと河やのいりえにとまるちどりかな

二〇九—二二

正治二年百首

ふるやどのいけのしらつゆそわさあるみのの五月雨

治承二年百首 五月雨 高嶺

長秋詠藻

五月雨はいとゞたかくなるみのうらにあまのつりぶね

正治二年百首

文月雨ふりつのるさはなとてとやうふりくらしまちうん

前大納言隆房卿

ふるさとのふかいりえのあまをとりぬ文月雨のなを

六帖詠 五月雨

正三位知家卿

日ぐすがてゆきつりのりぬるわ風やこのうりうる風文月雨のなを

[illegible]院入道二品親王家五十首

[illegible]

前中納言定家卿

[illegible]月をまちつのそらなりけるこのうちの五月雨の[illegible]

同院御歌百首の内五月雨

五月雨のやみにまどふ中てらすみねの山の月

[illegible]集

[illegible]

摂政家御歌

[illegible]月さらす[illegible]月雨の[illegible]

[illegible]中納言

[illegible]

西行法師

[illegible]百首の中五月雨と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千首和歌

民部卿

さくらあれい雪色にけ(け)ぬしの宮河のやまとそのやらの五月雨の

あしの葉のうきひとをとめぬまに袖をひたしてさみだれの

毎日一首中　同

五月雨のとくとくのたくのとくとくふりてとまるひまもなく

元亨二年毎日一首中　同

あしの山ちとりて地ちうちうせのもとまてとうさ五月雨の

文永四年毎日一首中　同

それまてのうちとくとくの山の五月雨のうちとうさるのあまも

寛元四年日吉社六合一五月雨を



法眼定雅

ふるとの人にのりそふうさきれてたちのとうさ雨のとうさ

光俊朝臣家會

雲　うけのひすいちのけうちわたくきれとのあり長

源仲重

家千中

恵慶

森　うるるとてとうさ(幾月)ぬんなれ雨のうの五月雨の比

法隆寺座主

万代　こ雨とうすやとの河の柳けちうえハいちの五月雨の比

西行上人

歌集

あまとうさとうてあうれ雨かるまこのうけあうしうの五月雨の比

二条院讃岐

[illegible]

[illegible]

源光俊朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月廿八日しのうそくはつけてさきたちものの
ゑ五百番の合　大納言通具卿
六月廿八日このたびのへいあんきてゆいてはつかのまうさ
新女院入内三百番歌五十首
正二位家隆卿
見渡せばはるのやなぎにまうこうちのうつろふかの花
天文二年二月晦日家百番合　仲資
ふりくすしかのこゑのはつかのこゑとひ
天仁二年四月師時卿家三番合五月廿日
仲實卿
七日
たなばたのうつろふ六月のゆうべこのさうしのさらるれいくれすしかなこゑかな
久安百首
花園左大臣家四天王
五月雨のふるやのうちのはなあやめ　校尚
弘安元年十四日常盤井入道家百首
ゑ
うしとせすうくいいくらくかりあのいとねさうるかりのむら
新女院入内三百番歌家平首
源師光
六月廿八日のこのやうにてはらうにてはらうあのひさ
家集ゆりあのと　源仲

五月五日のあさ、ひるまでに、
[illegible]
洞院殿より百疋かり給ひ
[illegible]
百疋ヲ

順徳院ノ御製

[illegible]
[illegible]
[illegible]

むさしぼのう　　よろづ人ちかづく

武蔵　すきさしのうしろにかくれゐるひさしの廉のゆりうごかして

いるまのくるま

見　火　円　　照射　なか

いるまのくるまのもとけうにうちのひや廉のうちのうちのうちのうちの人

元亨元年五月源宗光家の会山水賦題

信濃法師

晴　恋　　暁

ねとりすきうちきたるうねの山の花の梢ひさかた

春景　肥前

峯路　尺　　鹿

つくりのうちのうちのうちのうちのうちのうちのうちのうちのうちのうちの

二条院讃岐

正治二年百首

照射　　徒

家集　家集

拾大納言資実卿

家集

家集

家集

5444

家集 照射

久安百首

千五百番歌合

家集 照射

百首

久治二年百首

同五年百首

家集 照射

家集 照射

久安百首

千五百番歌合

家集 照射

百首

久治二年百首

同五年百首

家集 照射

六拍子

光後卿

千五百首

法橋昭照

仲實卿

源

冷照射

冷照射

三百六十首

姫

ふるのさとにうつりすみけるときよめる

家集　俊光

みそのゝ春の朽ぬるそこにうもれ
ぬ　清輔

四位女房

かりそめのたゝの春とこそ思へ
きゆるこゝろの雪のあけぼの

寛元二年百首

第六番　法眼

こゝ春さしぬるかぜにうつ
ろふ花のいろ

正嘉四年五月第百首　陳子合歌

蟬　聲

とゝろとゝもとのこゝろ
こゝろうつしてはるかに
ものをおもふ

4 杜冊　三家　三行分カトル

百首四首

文永三年の春とすゝの花のこゝ
ろみちてこゝろあるこゝろ

久安百首

紅のこゝろあさかれぬれは冊
をしらてあさうれ　この部

遠保四年百首

もゝさとの家さへのかゝみ
こゝろすまてこゝろ

4 樗　三家ト　三行分野ロ

家澄

邸屋敷

万十七

ものゝ家植
ものゝ家植
ものゝ家植

中納言家持

夏部　杜冊、樗

久安百首

澄覚法師

知にめくやりてあやちのの花乃色をとゝうつめ人いあしか

新院御百首歌五十首

藤澤々

ひかりあふ色のあやちのの花のいろをとゝうつ人いあしか

藤澤つ流れ

家集

ゆふ人とりつゝ引きたれよそをりあやちまつとのそゝ

藤澤

家集

あやちさくさくのまつ人月きぬさし人のさくさくの

藤澤

六百番歌

家集

ほとゝきすなくさくのあやちの北の森のあやちをしたの

遠長八年百首合　正三位忠宗卿

あやちさくむしよかくれてほとゝきすなくさくの森の森

判云あさ緑の森のあやちをあとゝ

こゝろをつくしの花のうつれるをすゝ

あやちありてさくさくをあきまと行て

ひくらつゝてさくさくを行くつゝ

百番

藤澤

ひくらのあやちをもとゝ

新撰四年百首

民部卿

548

六帖部

月

紀貫之

百合

三行分トル

紀豊河

正治二年百首

月

寄蓮法師

正治百首

月

月

月

月

月

月

姫百合

続後拾遺

恋

妹

待

路

筑波根

光

我妹子

垣

橋

臣

348

萬

六帖部

月

紀豊河

正治二年百首

月

寄蓮法師

正治後鳥羽

月

月

月

月

続後拾遺

姫百合

恋

妹

待

路

匠

檜

川原

垣

我妹子

家

三行分トル

百合

百首歌

殿富門院大輔

なつの野のさこふきたつるさ月哉　狩　番

藤原家家　百合花恋　源仲正

人をわすれすもるのうゑのつまてよいさとりつゝ　姫百合

永久四年百首歌　仲實卿

夏の野のやまとなでしこ　姫百合

百首歌中

藤原俊成

夏のゝのつちさくさうゑなれはにひとりのこさいはりのも

ちゝ性さゞまゝずすゝいてゝを

西行法師

ゆ花を　ゆ　あ　ゝ　ゝ　ゝ

大井河つくるなるひとのもとにつかはしける

三宮

ばかりの判官こうぶんのまひ人をおくりたるとて

つねのすみかをいとはるるとうとてのがれなとえるること

うんれうこそあるれがあけくることのほうり

屋く

屋ちりかたにをうぐひすのなくこえ

中文拾六番歌合

七瀬

かつらかはのうちにたちのこりたるひかりかるとてすあけぬるよい

昭

法橋弘照

夜河

ちらすうちさらぬしるせとあるやそのうちすや

瀬々少女

八十件男

千五百番歌合



かひのうちにかるとてとまりけるこころをかりとめあか

鶴

六帖

桂

瀬々

光俊朝臣

鶴尾手

新六二

このうちにさそふけぬしうらんへとまりさかくるすくら

後鳥羽院御歌合

新六二

橋川と

鶴飼

小舟

かりさすうしのさすらんとのうちにあけてとのうちうとのはるる

賀茂景人

あけのうちのうちのうちにたちのこりたるこころをとのうちにとまりさかくるすくら

小舟

捨

壁

ちら

拾遺集

橋俊忠卿

九

鶴飼

河

ちりあるこのうちにかへるこのうちにとまりさかくるすくら

千代

賢

四

四六集

法性寺入道関白

六條みと

正治二年十百首

皇太后宮大夫俊成

永仁元年六月法京寺家所合和川

後京法師

建久元年十月廿日

右

藤原忠基

天治元年五月廿日

右

藤原定家

352

良使法師

大井河のほとりにて

家集より

かつらゝ川を照らす

月

第段部尋雅

為門紀源

大蔵卿為家

一字脱

永久四年百首　大皇新院

かつひのうらすめつるかたをたれかはしらん

鶴舟

月

神祇伯顕仲卿

月

桂船はりくるにはしらんとやすらへ

八條入道大臣家合桂川

月

かつらの大のひとりしゆ

鶴飼

家集桂川

鶴舟

とをしかはとをしかはとをしかはと

師時公家御合戦の事

まさ人しらず

五月廿三日かりかうけたまはりて

[illegible]

注二位行家卿

現在六イ

のかりせのいそもとまさ浪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かりの夫のうけたまはりさぶらひの事

源右馬頭義経

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義経四年大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶺鴒

[illegible]

延徳二年中夏四月廿日　賢[illegible]

[illegible]

長享

[illegible]

[illegible]

[illegible]

334

萬

円

鶏

鶏飼船

よろづしらず

鶏河円

心

鶏

貫之

員

萬

長方

六十三

長方

水鶏

三行分トル

水鶏

音

誰

水鶏

水鶏

水鶏

元亨四年合

第中納言内侍

久仕こと卯の花きたれとひとしく打ちたちくるみなれ

三行分トル

慶

遠保三年百首歌 順徳院御製

大江

雲ゐ山ちかけれとうもれしたもえ人しらぬ

信西入道

意イ

ちえりの法のこのとしあやうしとくやうしうん

森

西三位知家卿

ゆきかへりくやうしうんこまてきえぬ山さくの雲

れしとこのみまきの雨もくさうもつはてやはなし

法之僧正行慶

千載百首歌合元亨四年

仁和寺

雨そすかくしかやはしらんとそ

仁和寺

雨そすかくしかやはしらんとそ

仁和寺

雨そすかくしかやはしらんとそ

文治五年五社百首会

第二年百首

千五百番歌合

二条院讃岐

西園寺入道前太政

新後拾夏

大納言通具卿

藤原雅経

従二位家隆卿

野守

寄蓮法師

第中納言定家卿

御集会

後鳥羽院

従二位雅経卿

玉夏

月

月の光にひかりのやうにてゆかるかな

百首歌

前内大臣

門院御製

むらさめの雲ゐの笛吹てまた夏の来るさ

中納言

みとりの雲ゐの笛吹てまた夏の来るさ

ほたるかな

あらしふきあしたの池のうなゐ菖蒲の

もしの

ほのめく

六十五歌合

顔

菖蒲

菖蒲

前内大臣

家中納言

かりの枕まくらにもれぬあしのねにまたこよひ

永久四年百首

源重昌

夏来ぬとすむしの山ハたそのかたらとてのうるやあるらん

むら

たそ



五月雨

前内大臣

五月雨のあやめ草ひきかけてあつめん宮をまとひよ

五月雨のあやめ草ひきかけてあつめん宮をまとひよ

五月雨のあやめ草ひきかけてあつめん宮をまとひよ

拾帝新作百首

春多(ゆけ)てをゆくかすみのうちのはるのうたの歌

寛治六年百首歌奉献 円

さくらさせ宮ゆくあるむさしの草をのあはれ(いろ)

久かたの門無は宮

藤内大臣

思こゆるれきの乃浦に新うきてあるつそつるしの(ゆく)ゆくうれ(なな)

建長八年百首歌合 右中将経教

紙うあ乃(み)春のあ一のたりうそすりやうの(筆)(なり)

円

五門院中宰相

分るあまるをと人ゝ見せんとそそもの(絶え)うれあるら(かな)

春京行願寺

建仁二年合 知

ありうら冨士のてそ代ゝ郭冨ゆゆしひと分てやもう

春京景氏

ふかてるやりうえのあ一ぬ宮ふれて宮みうう志ふ氏れ

宮勝四天王院久家 従六位大政大臣

ゆ(冨)ゆあ一や乃あ原のうゆ(冨)た浦ゆそゆ

藤内大臣

あ一ぬ宮ふ一ゆゆ宮乃やの一とゆそゆうまゆ(渡)

建仁二年歌合

為家卿

ゆうゆ(宮)(老)ゆ志ふ志の(なみ)ゆそあ原なうき里ゆあ西のいうう夫

為中納言

大口廣言

[illegible]

家集

正三位為兼卿

[illegible]

家集杜鵑

隆二位家隆卿

[illegible]

森

[illegible]

伊勢のうしの入口のまのうらひろあさよりうらの浦

[illegible]

建久二年四季百首　同

[illegible]

家集

[illegible]

家集海辺雪

清輔朝臣

[illegible]

[illegible]

信實

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛元二年五月祐盛朝臣家百首和歌

ふるさとの

深山蔦

いさら川ふかきをたのむ

行路蔦

かりそめにこしかたのみ

石寺蔦

いまさらのかりの林の

河蔦

法印賢仲

同

月

同

岸

散木夏

木陰

後拾遺

仁和寺殿

源仲正

蔦

よるひるとみしつるすがたは

散木蔦

長承三年六月常盤井殿百首和歌

照川流

同

なみのわそ　たつかは　若狭をてすよいさ西の方ひとりさんの中山

　　白忠朝臣

雨のはてさんひの中山なそれいもとそわくるのけさ

　　春宗卿　澄

　　陳　なをき

帯　紐

ひとすさる浦を若狭のさんめる火いわくるもはるはめく

　　ちやうさん　あるみ

巳宮ちすみさいさうわくれ　宮

　　花園院

　　前内大臣

　　藤原盛忠

ふりぬ時百首

　　隆源法師

　　宮

ちのれ　ゆるをとをとをと

中務卿親王

いろいろふかきとそさすらつ堂のうへのもみちはかはらん

建長八年百首歌合　法印定覚

けふのゆふさりかれいそ堂をゆくへもしらぬ雲のはてかな

百首歌奉進　法師

思ひとけいつかせきみのもみちはのうつしはてぬる秋の山かな

家集

ゆきのうちにさてもしきしのまもすかれすきてかれ

紙園社百首歌

きりわたるかのかたもなきかたの秋のわかれはいとかなしき

宝治百首歌奉進　法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

363

二二七—二

仁安二年百首歌

中務卿親王

いろいろふかきときはのみどりにそ
ちとりのこゑもかすみのうちに

建長八年百首の会　法印宴仲

けふのゆふさりかたのこゑもゆめ
ちとりのこゑもかすみのうちに

百首歌　寂蓮法師

ひとこゑのこゑもかすみのうちにて
ちとりのこゑもかすみのうちに

家集

ゆきのうちにさきてもとしをへぬ
ちとりのこゑもかすみのうちに

紙園社百首歌

きよたき殿太政後鳥羽院

ちとりのこゑもかすみのうちに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺貫外上

八月の月のかげをうつしてとよみはべりける

西院二年一百首　　隆信卿

ゆふけてさらぬ秋いろの月はやとりもはてしきぬの聲

歌集なし　　西行法人

月のかをたのもしるしもすしの秋さそひたるこのゆふ

式子内親王歌合なし　　藤原雅経

いとゝなほこゝろをかけてやどりやはてしきぬの聲

歌集なし　　清輔朝臣

かハ社浪のたちゆくあきの夜ハ月のひかりもさらぬ夜ぞ

歌集なし　　信濃西入道

歌苑抄

かハ社のこゝろをしるへとあきの夜ハ神もたのもしかりける

なし　　中原光成

うち社のもりたちてこそかハ社のこゝろをしるへ秋の夜ハ

なし　　藤原重義

かハ社こゝろをしるへとこそいはゝ

家集

なの花のかけさへ秋のひかりの山ぢのつくるとそ

あらはして屋ねのつゆ

なつかしてあはれとこそ

三百六十首なし　　好忠

夏雜　三行分トル

家集

なの花のかけさへ秋のひかりの山ぢのつくるとそ

あらはして屋ねのつゆ

なつかしてあはれとこそ

歌合

家集 夏中

千鳥

俊頼朝臣

晴嶋

女房

俊頼朝臣

俊成卿

俊頼朝臣

歌合

家集 夏中

百首歌中

俊頼朝臣

海辺霞 百首

春歌四

今

俊頼朝臣

百首哥中

かりそめ(中)に四(み)つ(ち)のあとにひらられて(ひ)はもさそひく風(ふ)らん(ん)

同(イ)

藤原信実

秋きぬといそぎあつりて月さきのこゝろをみちすぢ(ぬ)のきて

三百六十首中

奴忠

日ふるれいとゝこゝろきそのりてをのれそうきさをのみをも

いつと(ま)秋(ま)やのうさとたに(遣)ひらひて日ふるさをのうけとすん

ゝとみち(ち)ゝをこゝのくるしつくハてゝこゝのひ(月)ふるれらも

藤原

よゝこ(ゝ)ゝしず

ゝ(ゝ)

ゝ(ゝ)

ゝ(ゝ)

正安二年八月百首歌

おとかな

ふきたるかぜにさくみてるみねのまつ

遠條四年百首　　前中納言定家卿

なろ

ちのとに付色のわきまつ　　松の色

百首四首　　順徳院御製

むらさめ

村雨のやどりすきぬるひとそつゆ　　ちるこのもとの

天水和歌抄卷第八　終